

小学校の変遷

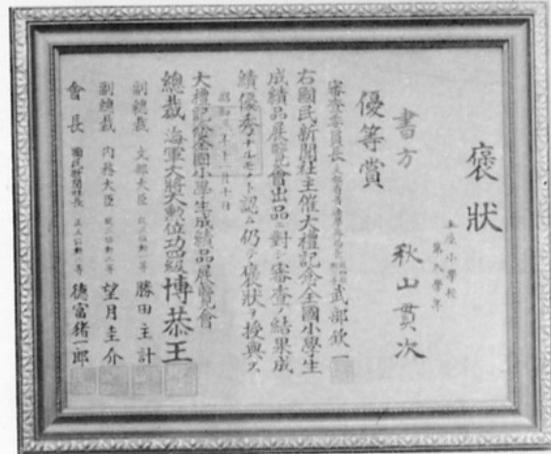
5. 中郡土屋尋常高等小学校時代

大正12年～昭和16年
教育制度の拡充期

○大正12年3月19日土屋尋常高等小学校と改称された。



昭和初期の通信簿



大礼記念全国小学生成績展覧会
に於て優等賞を受く秋山貫次氏
昭和3年11月10日



昭和2年全国小学校陸上競技大会に出場した選手
左から100m 1位(13秒)秋山マサ3位熊沢花子
(神宮外苑競技場)

思い出

昭和2年～昭和11年在職 高橋貞二先生

私はラジオ体操を昭和2年東京の講習会に行き行って覚えてきて毎朝実施した。今の第一第二の基本になった体操で県下でも土屋小学校が最初だったと思う。朝登校すると脇橋まで走って往復した。一周80mの運動場で育った有名選手が2人ある。それは昭和3年6月東京高師主催の競技会(明治神宮)での秋山マサさんと熊沢花子さんと決勝で1・3位になった。無名の土屋小学校が翌日の新聞記事をにぎわせたこと言うまでもない。

思い出

大正10年卒業 杉山吉蔵氏

草葺屋根の校舎であったのでボロ校舎と言われていた。ある先生が、お前達は学校はボロでも心の美しい人間になれと申された。マラソンの強かったことも思い出である。道徳教育が熱心で汽車に乗ったら年寄とか子どもを背負った人には必ず席を譲りなさいと言われた。今になってもその教えは忘れていない。母校の限りのない発展を祈って……。

昭和十年高等科卒業生



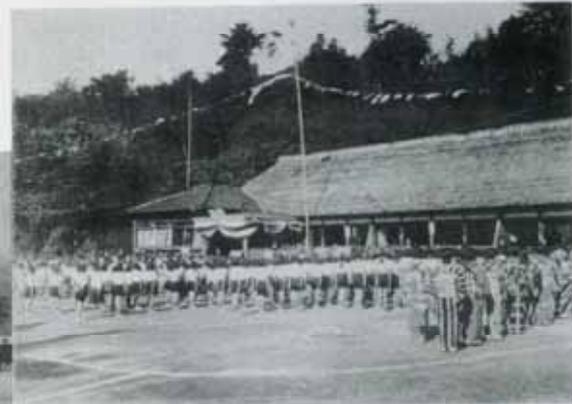


高等科生徒 昭和9年9月13日

思い出

大正13年卒業 山本新太郎氏
校舎は二棟で講堂がなく、天長節とか紀元節の時はいつも教室の中の机を廊下に出して講堂にした。その仕事は大変でした。先生の教えをよくきかなかったり、怠けたりすると棒でなぐられたこともあった。

電灯は大正12年8月工事が終わり夜間だけ電光は輝いた。心から学校の100周年を祝します。



女子補習科生も参加している

思い出

昭和3年～昭和13年在職 猪俣 実先生

私は卒業生でもあるし学校へ10年間勤めもしました。硝子戸は隙間だらけでいつも寒風が吹きこみ足袋もはかないで児童等は毎日元気にやっていました。体操のさかんな学校で西部の体操競技会ではいつも上位であった。校庭に雪が10cmもつもったのにマラソンをやって走り回ったことも思い出になり、私達大人も体力が強くなった。今後の学校の発展をお祈りします。



昭和11年全職員



昭和7～8年

思い出

大正13年卒業 越光愛次郎氏
 大地震の時に高等科一学年であった。
 校舎は桐の木に支えられて倒れなかったが相当の損害で、崩れた裏山の砂は物置、便所の中に流れこんでしまった。放課後モッコでそれを運動場に運び出した。
 高等科の仕事として便所の汲みとりをやった。そして農場へ運んだのも思い出に今なおなっている。学校100年の時に思い出と共にその歴史を祝します。

思い出

昭和3年卒業 佐藤章氏
 源氏の紋所である笹龍胆に土屋の土をつけた記章の学帽をかぶりカスリの着物に木綿の袴をはいていった入学式は今でも忘れない思い出です。寺分の上にかけてられていた4本橋を川に浮べて座禅川下りをしたことも思い出されます。創立百周年を心からお祝い致します。



昭和7～8年 日本赤十字社に加盟
 土屋少年赤十字団を結成する
 昭和13年



高等科生徒は少年消防団をつくった
 昭和14年

卒業生は青年学校に学んだ
 下屋敷を開墾する合宿訓練





郷土熊野神社に詣でて戦勝の
祈りをした。毎月1日、15日

昭和13年

思 い 出

昭和13年卒業 越 光 国 男 氏
私は5年生の時に日支事変がおこった。社会も学校の中もい知れない緊張がみなぎった。やさしく私達を面倒みてくれた若き人々は次々に土屋、両親を離れて戦地に向った。朝5時に起きて土屋橋、中沢橋、南平橋にそれらの人々をお送りした。また少年消防団のこと、神社参拝等なつかしい思い出ばかりです。今PTAの会長として皆様方と力を合わせて教育のことに関係していますが、母校の100年を祝してその発展をお祈り致します。



高等科生の農業実習



昭和13年の金目川の氾濫で埋った寺分耕地
の石拾い 女子青年団



思 い 出

昭和11年～昭和20年在職 加藤好松校長先生
戦争がはげしくなるにつれて高学年の児童は勤労奉仕に明け暮れたり、学校でも役場から麦を作ること依頼されて40俵前後の収穫を得て皆で喜んだことは今尚眼前によみがえってくる思い出です。更に戦況が悪化してくると村内の寺々には集団疎開が入ってきて児童数もふくれ上がりました。ここに土屋小学校の限りない御隆盛をお祈りすると共に当時ご支援下さった皆様方に厚くお礼を申し上げます。

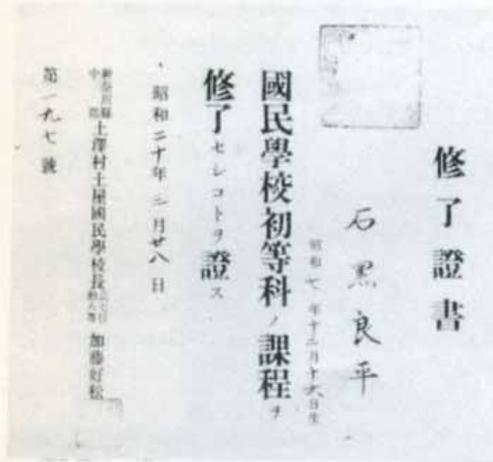


花籠に一町歩程の畑を借りて増産
報国のため麦を耕作し40俵の収穫
をした。

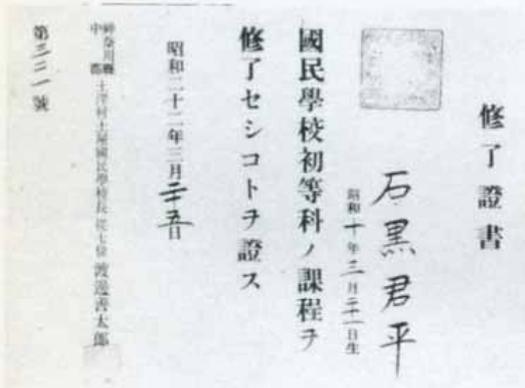
6. 土屋国民学校時代

昭和16年～昭和22年

戦時下の教育期



修了証書 昭和20年



修了証書 昭和22年

○昭和16年（1941）3月国民学校令の発布

によって明治以来70年間の伝統を持つ小学校の名称はここに国民学校と改められた。神社参拝、戦没者墓参、避難訓練、出征家庭奉仕等国防的实际訓練がなされまさに非常時教育の突入であった。



体操の時間 昭和17年

思 い 出

昭和20年～昭和22年在職

渡辺善太郎校長先生
学校の東校舎は国際航空（今の日産車体）と海軍火薬廠（今の横浜ゴム）の疎開の品物で
使用ができない。裁縫室と北校舎は兵舎とな
ってしまったので1・2年生以外は野外で勉
強した。5年生は鷹取陣地の兵隊さんに山を
登って弁当運び、6年生高等科の者は下の運
動場の山の根に全校生徒の避難の防空壕掘り
や出征兵士の家の勤労奉仕であった。
当時を思い俳句を作りました。

（昭和47年1月31日二宮で）

- *空襲にあい 5年みな 無事なりき
- *上級生 汗流し堀る 防空壕
- *全村の 疎開の噂 夏の暮



全校職員 昭和21年



学んだ人々の記録

思い出

昭和16年入学 久永君江氏

私が学校に入学したその年の12月あの戦争が始まり私達は戦争の経過と共に小学生生活を終わりました。朝礼にはきまって校長先生が戦争のこと、兵隊さんの御苦労を説き私たちをはげまして下さいました。昭和19年危くなった都会からは疎開者がふえ、村の家々には召集令状が来て多くの人々が出征されました。私の父もついに帰らぬ人となってしまいました。欲しがりません勝つまではという字がどこに行っても目の中にとびこんできました。昭和20年5月土屋のような山村でも空襲警報が鳴りひびきました。あの防空頭布が忘れられません。



戦後の教育

学級児童会 昭和22年



なつかしい校門と卒業生 昭和22年

思い出

昭和22年卒業 鈴木一男氏

朝夕に迎え送ってくれた校門は、今よりずっと東にあり、右に大きな楠、左に二宮金次郎の像で、階段を登りつめると妻ワラ屋根の障子の窓の長閑かな里の小学校であった。校門の位置、校舎の姿は変わっていても母校はなつかしい。地域開発と共に昔の面影はなくしつつあります。そのさみしさが一面ありますが他面新しい息吹きが育ちゆく子どもたちの中に感じます。100周年おめでとうございます。

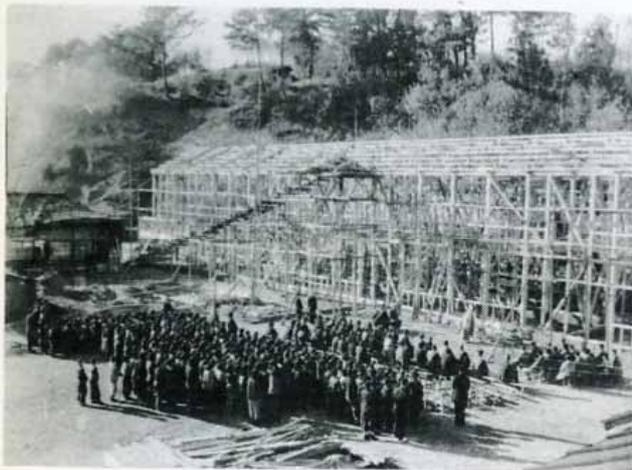
7. 土沢村立土屋小学校時代

昭和22年～昭和31年
新教育体制期

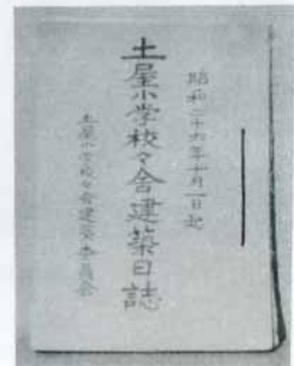
○教育の編成を根本から覆えす六、三、三、四制の誕生となり小学校の教科内容も全く変わったものとなった。



柱の衰損は歴史を示す
老朽校舎 昭和二十五年撮す
多くの卒業生を育てた。



新校舎上棟式 昭和26年12月20日



新築の記録

思い出

昭和27年卒業 村主文子氏
現在の校舎をつくるためにそれぞれ分散して授業がされた。私は5年生で惣領分の青年会館であった。

お昼になると森先生が薪をポキンポキンと折っては、囲炉裏でお湯を沸かして下さる。囲炉裏を囲んで雑談、先生のお話、読書、それは楽しい一日でした。先生の暖かさや人様の親切さの中での学校生活は一生忘れられません。

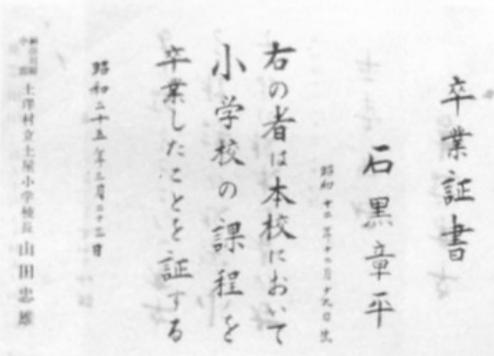
昭和二十八年撮す



○営々と五回にわたって続けられた校地の拡張工事は本校の重要な歴史であり、地域の歴史の一コマでもある。地域の人々の勤労奉仕に頭の下る思いがする。



教室の増築 昭和31年8月



増築完成 昭和31年12月



全校職員 昭和27年

思い出

昭和22年～昭和30年在職

山田忠雄 校長先生

古い校舎で茅葺で雨はもり、廊下はガタガタで歩くのさえ危険であった。校庭も狭く児童達もなんとなく「ひがみ」を持っていたようである。地域の人々の協力で校舎新築の計画が進むと共に裏山の切り崩し作業が開始された。全村一丸となって、鍬、シャベル、ツルハシでぼっくりぼっくりと固い岩石をかき、竹モッコで土砂を運んだ地域の人々に今あらためて敬意と感謝を致します。



戦後の新教科社会科の授業

昭和二十七年



8. 平塚市立土屋小学校時代

昭和31年～昭和48年5月
新教育体制期

○昭和31年9月30日中郡土沢村は平塚市に合併し土沢村立土屋小学校は平塚市立土屋小学校と改称された。土沢村は面積1145㎡、世帯数606、人口3973人であった。

学級数10 全児童347人 職員12人



切り崩された裏山 昭和31年



広がった運動場 昭和33年



図工科の学習 昭和35年 3年2組



全職員 昭和38年 創立90年の時



続いて切り崩し 昭和33年

思い出

昭和33年～38年在職 石川 治 男 教頭先生
土屋にお世話になっていたのはついこの間のような気がしますのに、もう10年が過ぎてしまいました。90周年の折に苦勞して沿革誌を編集し御校の歴史について梢細かく知っておりますだけに100周年のお祝いの朗報に接して今昔の感に堪えません。かつての式典の日、校歌が制定され児童達が喜び謳い上げるのを聞いて涙がにじんだ記憶が蘇ってまいります。温故知新往古をかえりみ、新しい2世紀目の歴史の創造に向けて力強い第一歩を踏み出して下さい。土屋小学校と地域の輝かしい発展を祈ります。

思い出

昭和37年～昭和39年在職
佐藤 勇 校長先生
狭い校庭に容赦なく入ってくる車を憎んでは校庭に地下駐車場を設けたいと考えたり、校舎の裏山に登っては、この山塊を爆破して校地に出来ないかなどと妄想していたことなどがなつかしい回想です。

掌に 戴せたきほどの子らにして わが語らいを
聞きいたりけり (昭和47年2月1日橋本にて)



楽しい大山キャンプ 昭和36年8月 6年生